

「企業閉鎖」という合理化中に誕生した市議会議員

埼玉県・元ゼンセン同盟埼玉県支部長・小島 謙吉

私が埼玉県支部に在職したのは、昭和45年から55年まででしたが、前半の5年間（45年～49年）は、繊維不況等もあり、合理化、合理化の連続で、12社13組合（支部）で合理化提案を受け、加盟組合員の雇用を守るべく、懸命の努力をしたにも拘らず、多くの仲間が職場を離れていかざるを得ませんでした。

選挙準備中の閉鎖提案

そんな中であって、越谷のK紡織労組の場合、会社側から「企業閉鎖・全員解雇」の提案を受けましたが、県支部としては、時あたかも地方選挙の準備中で、私と致しましては、「岩槻市、浦和市、川口市、川越市、幸手市、鳩ヶ谷市」等で擁立を考えており、特に、越谷は、K紡織労組のK組合長が、組合長であると同時に会社の労務担当であり、地域の企業の労務担当者との交流もあり、人格者でしたから、彼の説得を試みたところ、K組合長いわく、それなら良い人物がおり、彼ならきっと承諾してくれるだろう、ということで、他の企業で労務担当課長をしており、大学時代に国会議員にも関わりをもったことのある「F」という人物の紹介を受けました。しかし、彼の勤務している企業は、総評・金属の労働組合のある「O鉄鋼」ということでしたので、私と致しましては、多少のためらいもありましたが、出馬に当たっては我々の言い分を聞いてもらえれば、ということで、とにかく会って話をしてみることにし、こちらの考えを話しました。

出馬と退職・必勝をめざして

その結果は、出馬に当たっては会社を退職（必ず当選させるという責任を負うことになりますが）、もちろん民社党公認で闘うというものでした。

それなら、ということで民社党県連に話を持ち込み、民社党も公認するということになり、同時に、同盟も、ゼンセンも推薦を決定、選挙の運びとなったわけです。

そして、選挙を進めるに当たって、この選挙の主体となるK紡織は、幸か不幸か、合理化で休業状態でしたから、毎日のオルグ動員も容易に対応できましたし、F氏出身のO鉄鋼の組合員は男子中心の職場で、また、K紡織労組の組合員は女子中心でしたから、男女ペアでのオルグが功を奏し、見事当選、以来、3期連続当選、民社党県連の書記長にも就任、民社党発展にも貢献を致しました。

以上